



香川の野鳥ファイル No. 2 ミヤコドリ

先日、ミヤコドリの渡来が確認されました。今回は、観察された三橋雅さんから、写真と観察報告をいただきましたので、あわせてご紹介します。

初めてのミヤコドリ

三橋 雅

「湊川にミヤコドリがいるって！」1月12日の栗林公園探鳥会で娘が聞いてきました。ミヤコドリといえば、「伊勢物語」でいうユリカモメ、「都鳥」と勘違いし、その白黒パンダ模様を記憶した、まだ見ぬあの鳥ではありませんか！ さっそく白鳥町の湊川河口へと車を飛ばしました。河口を探すこと約一時間、もういないのかとあきらめかけた頃、海際にその姿を見つけました。海岸の石をひっくり返し、何か食べているようでした。そのうち河口の対岸へ飛んでしまい、さらに食べ続けていました。こちらでも対岸に移動し、50～60mの距離から観察できました。嘴の先端がすこし褐色気味で、雨覆羽の羽縁が褐色を帯びており、若鳥かなと思われました。一月の海岸はさすがに寒く、一時間ほどその姿を見せてもらい帰宅しました。娘が岩田さんに報告すると、香川には1992年豊浜町で観察記録があり、二度目とのことでした。その日の四国新聞にもミヤコドリの記事が出ており、12月の末ごろから来ていたようです。翌13日は、家内と共に湊川へ出かけ、同じ場所で見ることができました。餌採りで歩きまわってじっとしていないその姿を、始めたばかりのデジスコでなんとか捉えることもでき、久しぶりに鳥見に興奮した連休でした。

★記 録

種 名	ミヤコドリ
観 察 地	白鳥町湊 湊川河口
羽 数、性・齢	1羽(若)
観 察 年 月 日	2003年1月12日・13日
(初認日・初認者)	2002.12. 15、大内町与田川河口で山本正幸氏が1羽(若)を観察(四国新聞2003.1.12)。齢や脚・嘴の色から、おそらく同個体と思われる。
(終認日・終認者)	※未確認
観 察 者	三橋雅氏・未来さん



2003.1.13 三橋雅氏撮影

★角 評 説 (事務局より)

ミヤコドリはユーラシア大陸に3亜種が分布しており、日本ではカムチャッカ半島やロシア東部で繁殖し、中国南部などで越冬する亜種 *H.o.osculans* が観察される。四国では冬鳥(※1)とされているが記録は少なく、「時に越冬する、稀な旅鳥」という程度。徳島県では吉野川や那珂川河口(※2)、愛媛県では重信川や加茂川河口など(※3)、観察地もおおむね限られている。香川県では、確認できた範囲では1992年11月に豊浜町姫浜で1羽の観察記録があるだけである(※4)。以前は北九州でのみ多数観察されていたが、近年東京での越冬数が増加しており、今後の渡来状況の変化が注目される種である。

なお今回の個体は、①嘴の先端部が黒味がかかる、②眼の虹彩が褐色がかかる、③雨覆(大雨覆・中雨覆・小雨覆)、肩羽が褐色味があり、それらと上部肩羽に淡色の羽縁がある、④脚の色が成鳥に比べて淡い、などから、若鳥と思われる。ただし羽色などから、第2回冬羽以降の可能性が考えられる。

※1 「日本鳥類目録第6版」、日本鳥学会、2000 / 2 「徳島県野鳥図鑑」、日本野鳥の会徳島県支部、1985

3 「愛媛の野鳥観察ノットブック はばたき」、日本野鳥の会愛媛県支部、1992

4 「香川の野鳥ウォッチングガイド」、日本野鳥の会香川県支部、1996